

田村市指定有形民俗文化財

えま しきこんだいくあわせ ず 絵馬「四季混題句合の図」



時代 明治20（1887）年

寸法 たて 93cm

よこ 284cm

絵師 愚春久山人

田村市船引町荒和田字二ツ宮地内に所在する三渡神社の創建は不詳ですが、伝承では文永年間（1264～1274）の勧請で、古くは身和田里大権現と称したとされています。

拝殿内に奉納されている絵馬「四季混題句合の図」には、季節を取りまぜてよまれた俳句28句（俳人は22名）が記され、その下に句会のようなユーモラスに描かれています。

江戸時代中期から俳句が全国の庶民の間で大いに愛好されるようになり、田村市船引町では江戸末から明治にかけて、荒和田、要田、笹山、春山、文珠、石森、門鹿、新館の村々で特に盛んでした。

絵馬に記された俳人を見ると、地元の荒和田や要田などの俳人の名とともに、石森の宗匠（文芸・技芸の道の師匠）壁谷兆左の名も見え、当時この地方でも多くの人々によりたびたび句会が催されていたことがわかる資料として貴重な文化財です。